10月3日のウクライナ情報

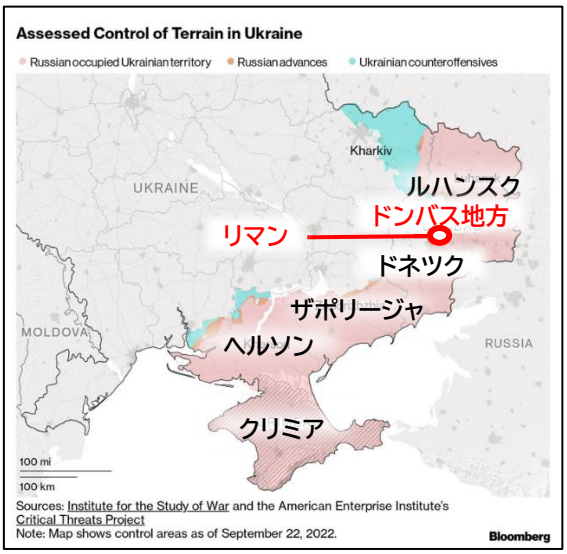
安斎育郎

●ロシア国防省、東部の要衝リマンから撤退を確認（Bloomberg,2022年10月2日）

（ブルームバーグ）：ウクライナ軍は 10 月1日、東部ドネツクの要衝リマンを占拠していたロシア軍を包囲した後、同地域に入った。ロシアのプーチン大統領が前日にリマンなどの併合を宣言したばかりだった。ロシア国防省は 10 月1日、ウクライナ軍に「包囲される恐れがある中」自国軍をリマンから撤退させたことを確認した。

プーチン大統領は9月 30 日、ウクライナで占領した4州を「恒久的に」併合すると述べ、領土防衛のためあらゆる可能な手段を使うとあらためて警告した。

プーチン大統領はウクライナ領の併合文書に署名－「恒久的」と主張したが、米国や欧州連合（EU）各国はこの動きを非難。米国はロシア中央銀行のナビウリナ総裁やノバク副首相など数百人を制裁対象とした。ノバク副首相は石油輸出国機構（OPEC）との協議でロシアを代表する要人だ。



※安斎注：ロシア軍がリマンでのウクライナ軍の攻撃の前にアッサリと撤退しているのが印象的ですが、ルハンスク、ドネツク、ザポリージャ、ヘルソンの4地域のロシア編入手続きは、これら4つの地域がロシア連邦憲法を順守する条件を備えているか否かの審議が10月3日下院で、10月4日上院で行なわれる段階なので、ロシア連邦としての編入手続きは正式にはその後になります。ウクライナ側は（ドネツクがまだロシア連邦に正式に編入されていない）このタイミングでリマン攻略戦を実施したのでしょう。ロシア連邦としてドネツクを連邦に編入した後だと、今回のような攻撃はロシア連邦に対する攻撃とみなされて、ロシア軍の組織的反抗を受ける可能性がありますので、そうならないぎりぎりのタイミングでウクライナは攻撃を仕掛けたと思われます。監視衛星情報などで敵兵の手薄なエリアを検出し、奪還計画を実施したのかもしれませんが、この地域をめぐる攻防は今後1週間ぐらい見てみないと判断しにくい状況ですね。ほとんどこの1か月、ロシア軍は派手な動きをしていないように見えます。兵器生産や兵員の休養などで、今後へ向けての体制の再建を進めているのかもしれません。

リマンは東部の要衝とされる人口2万人余の都市で、ゼレンスキー大統領発表では「リマンを奪還し、戦闘はまだ続いている」ということですが、ロシア側はルハンスク兵等 500 人がいただけでロシア軍第 20 親衛連合軍が後方から長距離援護砲撃をしていた状況だということです。驚いたことに前線には人がいなかったということで、ウクライナはほとんど無人のリマンに攻め込み、敵の長距離砲による攻撃を受けながら占領したという情報もあります。

●各地でロシア加盟の祝賀行事（2022年10月1日）

https://www.youtube.com/watch?v=C_4kuOnVa0U

●イタズラ字幕（2022年10月1日）

※安斎注：これは実際の映像に投稿者がいたずらで字幕を付けたものです。今更ながら NATO 加盟申請という状況を、「今日気が付いたのですが…」と揶揄したところが面白かったので、捨てがたく、載せました。

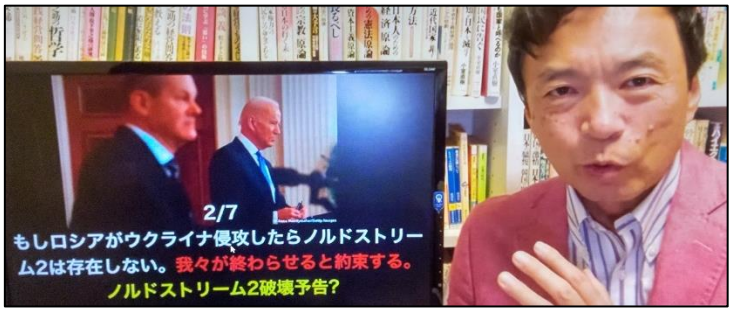
https://twitter.com/Jano661/status/1575864778194501632?s=20&t=0CX9kMXhydGLbx58ofGB9w

●プーチン演説のポイント（及川幸久、2022年10月1日）

https://www.youtube.com/watch?v=HGReOBFDkZM

●もしもノルドストリームがアメリカの仕業なら（及川幸久、2022年10月2日）

https://www.youtube.com/watch?v=Sfx-OGFzOCA



●衛星攻撃の可能性（2022年10月2日）

英国のトニー・ラダキン首席提督はロシアが西側の衛星を攻撃すれば英国全ての通信回線をノックアウトすることが出来ると述べた。

https://twitter.com/morpheus7701/status/1576417959614230529?t=Ct16vg35mPxpCPtLbCVwWQ&s=09

●国連世界食糧計画事務局長（2022年10月2日）

世界では地球上の全ての人、つまり 77 億人以上を養えるだけの食料が生産されています。私達はその食料の 50%を、肥料を使って得ています。肥料がなければ必要な作物はできません。中国は世界初の肥料生産国です。そして世界第 2 位の生産国はロシアです。

https://twitter.com/morpheus7701/status/1576418564088926208?t=e0q6rPS5v-IejLl9vj_Ttw&s=09

●ロシア戦闘員がスタロベルスクの難民に人道的援助（2022年10月2日）

https://twitter.com/morpheus7701/status/1576466710177411072?t=ejPgnXmyyxoAL6KDWXyXyQ&s=09

兵士たちは軍事作戦特別区域にある社会施設のひとつに人道支援物資を届けました。この施設には

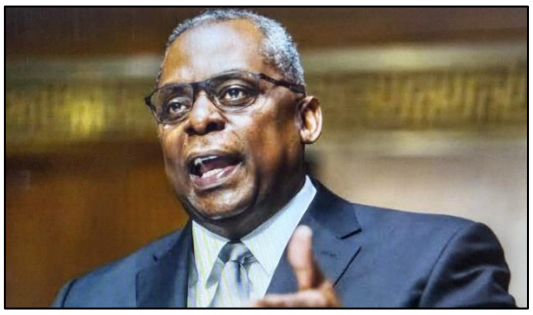
ハリコフ地方を追われた約 200 人の難民が収容されている。

●オデッサでのドイツ―ウクライナの取引（2022年10月2日）

ドイツのクリスティーヌ・ランブレヒト国防相は昨日オデッサに急行した。なぜオデッサなんでしょうか？どうやらオデッサから大量に輸出されている穀物と引き換えに軍事的な援助をしてほしいというのがウクライナの要求だったようです。

●オースティン米国防長官：「ウクライナの NATO 加盟加速に関する決定は同盟国 30 カ国すべてが行うべき」（2022年10月2日）

https://twitter.com/morpheus7701/status/1576498415000645634?t=9G5U4HnvI3Ed_zmnWfdkSw&s=09



※安斎注：そんなに全加盟国が速やかにウクライナ加盟を認めるような拙速は決定が出来るだろうか？これはウクライナが攻撃を受けたら NATO が攻撃を受けたものとして直接戦争に乗り出すことを意味するので、極めて重大な決定のはずだ。

●4地域併合に関する国連安保理の論議（2022年10月2日）

ロシア連邦への四地域の併合を非難する国連安保理決議にロシアが拒否権を行使し、中国、インド、

ブラジルが棄権した。 ウクライナの NATO への即時加盟は米露の戦争につながると西側は懸念している。

出兵兵士を送る儀式

●ロシア側「本気出すと危ないので、丁寧にやっているのです」(2022年10月2日)

●イギリスのガーディアンの2014年の論評(2022年9月25日)

大手新聞ガーディアン 2014 年 5 月 13 日の記事『ウクライナでアメリカはロシアとの戦争へ私たち(イギリス)を引っ張る。アメリカと EU によって解放したファシスト勢力がロシアとウクライナの国境を引き裂く。西側は今ネオナチ国家をバックアップしている』世界各国の対応を見ると皆分かっている。

Subscribe →

The Guardian

News website of the year

News Opinion Sport Culture Lifestyle

Opinion

In Ukraine, the US is dragging us towards war with Russia

John Pilger

Washington's role in Ukraine, and its backing for the regime's neo-Nazis, has huge implications for the rest of the world

Tue 13 May 2014 15.30 EDT

8 years old

2014

Why do we tolerate the threat of another world war in our name? Why do we allow lies that

Washington's role in Ukraine is different only in its implications for the rest of us. For the first time since the Reagan years, the US is threatening to take the world to war. With eastern Europe and the Balkans now military outposts of Nato, the last "buffer state" bordering Russia - Ukraine - is being torn apart by fascist forces unleashed by the US and the EU. We in the west are now backing neo-Nazis in a country where Ukrainian Nazis backed Hitler.

Having masterminded the coup in February against the democratically elected government in Kiev, Washington's planned seizure of Russia's historic, legitimate warm-water naval base in Crimea failed. The Russians defended themselves, as they have done against every threat and invasion from the west for almost a century.

But Nato's military encirclement has accelerated, along with US-orchestrated attacks on ethnic Russians in Ukraine. If Putin can be provoked into coming to their aid, his pre-ordained "pariah" role will justify a Nato-run guerrilla war that is likely to spill into Russia itself.